

今川義元公生誕五百年祭にむけて



今川義元公像



阿部住職に目録を手渡す酒井会頭



今川義元公生誕五百年祭推進委員会(委員長・小和田哲男静岡大学名誉教授、事務局・静岡商工会議所)は、2019年の今川義元公生誕五百年祭にむけて、さまざまな記念事業を展開します。

義元公を再評価し、市民の誇りを醸成

駿府、現在の静岡市は、義元公を中心とした「今川時代」、家康公の「大御所時代」に繁栄しました。今川文化が花開いていた時代に、駿府で教育を受け元服した家康公が、後に駿府を首都機能を担う国際都市に創りあげたことは、「今川から徳川」への流れです。

さらに、その流れは現代の静岡市に続いていることに鑑み、原点となった「今川時代」を振り返り、義元公の功績を再評価することで、市民のこの街に対する愛着と誇りを醸成するとともに、地域の活性化につなげたいと考えます。

今川復権宣言と推進委員会設立

記念事業に先がけて、2017年5月19日の義元公命日忌法要日に今川家の菩提寺である臨済寺

で、小和田哲男静岡大学名誉教授、酒井公夫静岡商工会議所会頭、田辺信宏静岡市長、阿部宗徹臨済寺住職による「今川復権宣言」を行いました。

7月19日には中島屋グランドホテルで「今川義元公生誕五百年祭推進委員会設立総会」を開催し、静岡商工会議所、静岡市、静岡市美術館、するが企画観光局、徳川みらい学会、I Loveしずおか協議会、人の集まる街づくり市民会議、駿府ウエイブ、安東地区自治会連合会、静岡浅間通り商店街振興組合、今川さん製作委員会で組織する推進委員会を設立。

また、静岡商工会議所として、臨済寺に再建する「今川霊廟」に係わる募金を募り、2018年2月15日、臨済寺で酒井会頭が阿部住職に500万円を寄付。

旗印「赤鳥」を使ったロゴマークを決定

3月20日には、ロゴマークを決定。群青の地に金の旗印「赤鳥」と「2019 今川義元公生誕五百年祭」の文字を合わせたもの。

「赤鳥」すなわち女性の道具である垢取を旗印とした経緯は、今

川氏の初代の範国が「赤鳥」を旗印に美濃青野原の戦いに勝利した後、静岡浅間神社に参拝したところ、坐女が「浅間社の神が赤鳥をお前に与えたので、戦いに勝ち、この国を得た」という神の託宣を伝え、たから、と範国の次男・了俊が書き残しています。

講演、展示、ウォーク、演劇、漫画でPR

2018年の記念事業としては、5月19日の義元公命日に臨済寺で「霊廟落慶法要」「特別拝観」を行うほか、次の事業を予定。

ゴールデンウィークに駿府城公園で開催するイベントで「駿府と今川氏」をPR。年4回の「今川トークセッション」。旧青葉小学校跡地での「今川氏特別企画展」。地元静岡の「今川関連史跡のウォーク企画」。「今川氏に関わる歴史講演会」。演劇「今川物語ゼロ」。

静岡商工会議所では、広報誌で過去に連載した小和田哲男氏執筆「駿府と今川氏」に加筆した冊子を発行するとともに、漫画「今川義元公入門講座」を1年間、広報誌に連載後、冊子として配布します。